MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT

マミヤカメラクラブ

マミヤカメラクラブはマミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会いただける写真クラブです。
マミヤカメラクラブ会報誌（Mamiya Gallery）の発行（原則年２回）。プロ写真家による撮影会・勉強会・セミナーの開催。web ギャラリーで会員の作品展示。マミヤ製品修理・点検料金の割引き等と会員特典もたくさんあります。マミヤカメラに関する情報、会員相互の親睦と写真技術向上をめざし、素晴らしい写真の世界をご堪能ください。

入会費用

入会金　1000 円（税込）
年会費　3000 円（税込）ご入会月より１年間。
※但し ２ 年分の年会費をご入会時にお納めください。

特　典

■マミヤカメラクラブ会報（Mamiya Gallery）の発行。
■クラブ撮影会の開催。
■勉強会・セミナーの開催。
■ホームページ上に会員作品ギャラリーの開設。
■マミヤ製品修理・点検料金の割引き。
■会員証、オリジナル会員バッジ提供。
■オリジナル会員名刺制作（有料）。

●製品・修理に関するお問い合わせは、サービス受付へご相談ください。

●修理をはじめオーバーホール、清掃等を承ります。
●操作上の疑問にもお答えしています。

Phase One Japan 株式会社
物流センター内サービス受付
〒385-0052 長野県佐久市原 547
TEL.0267-62-8036 FAX.0267-62-8137
営業時間　9：00〜17：50　土、日、祝日は休業

マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 ワイズビル 株式会社ワイズクリエイト内
TEL.03-5689-2776 FAX.03-5689-2786
E-mail :info@mamiya-club.com

●マミヤカメラクラブの入会お申込み等お気軽にお問い合せください。
●撮影会・イベントのお申込み・お問い合せを承ります。
●下記、ホームページでも詳しくお知らせ致しております。是非ご覧ください。

マミヤカメラクラブホームページ　http://www.mamiya-club.com/

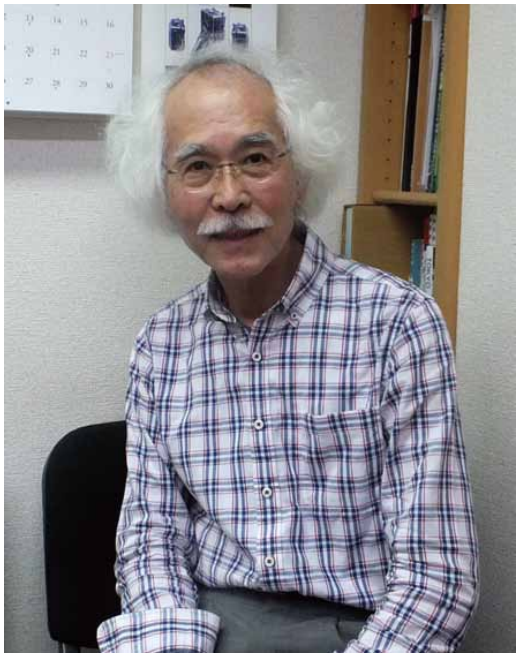
ワイズクリエイト 新刊案内

書籍名　大判カメラと中判ミラーレスデジタルで撮る
発行日　2017 年 10 月 1 日
著　者　木戸 嘉一
編　集　木戸 嘉一
判　型　A4 判 42 ページ
定　価　1500 円＋税
発　行　株式会社ワイズクリエイト
ISBN　9784990397227

●株式会社ワイズクリエイトでは、下記のような業務を行っています。

◎フェーズワン製品・大中判カメラ販売を致しています。
◎撮影アクセサリー、ザックの販売を致しています。
◎プロラボ現像・プリントを承ります。
◎撮影会・ワークショップ・セミナーを開催しています。

ワイズクリエイトは写真を通じて人と人、人と自然との コミュニケーションを確立する事を目的とするフォトオフィスです。
大中判カメラ専門ショップを展開、自然写真家、山岳写真家による写真セミナー、撮影会の開催、写真集の出版、写真レンタル、各種制作業務等、写真に関するソフトとハードあらゆる業務を行います。
www.yscreate.co.jp



「侘び寂びの世界」や「日本的な作品表現」には和紙プリントが最も適していると語る写真家・三輪薫さんに迫る。

三輪　薫　（みわ かおる）
1948年、岐阜県関ヶ原町生れ。県立大垣北高校卒後、家業の日本の伝統工芸塗師を継ぐ。4年後、名古屋の日本デザイナー学院写真学科で学び上京。写真家吉田昭二氏に師事。結婚後、日本写真専門学院教務課勤務の後、フリーになり写真家に転向。日本的な作品表現や創作を模索し、「カメラで日本画や墨絵を描く」作風や「侘寂の世界」を探求し続けている。35mm～8×10inch の引き伸ばし機を5台導入し、35mm～8×10inch判カメラで撮影したファインプリントを制作し、30数回開催のオリジナルプリントに拘った個展を主体に活動。2003年に和紙にインクジェットプリンターで出力したデジタルファインプリントによる「風香」展を開催し、以後和紙プリント作品の創作を精力的に行い、個展を13回開催。フォトコンテストの審査や写真愛好家対象の写真教室やクラブの専任講師も多く担当している。全国組織「わの会」、フォトワークショップ「風」を主宰。神奈川県相模原市在住。

三輪薫　http://miwa-kaoru.main.jp/

2016年に銀座・キヤノンギャラリーで開催された「こころの和いろ」の会場スナップ。多くの来場者がありました。

三輪薫写真展「こころの和いろ」より

今回の巻頭企画に登場頂くのは、独特なヘアースタイルがトレードマークの写真家・三輪薫さんです。30 年以上も前からの知り合い故に遠慮無くいろいろな質問をさせて頂きました。モノクロ写真の個展を 11 回、和紙プリントの個展を 13 回も開催している、超ベテラン写真家の写真との出会いや写真への拘り、和紙プリントについて、アマチュアカメラマンとの接点等の話は大変興味深いものがあります。

（木戸）

写真との出会いは――

小学生の時に向かいに住んでいた高校生が写真好きでお座敷暗室での引き伸ばしまでやっていました。これを手伝っていてバットの中の印画紙から浮かび上がる画像に感動した記憶があります。そして欲しかったミノックスの様なオモチャのカメラを小遣いを貯めて買いました。中学生になって叔父から二眼レフカメラをもらって撮りだしたのが、本格的な写真撮影の始まりでした。因みに私の息子も 2～3 歳の時に私の暗室作業を長い間ジッと見つめていましたが、浮かび上がる画像に当時の私と同じ様に感動していたのではないかと思います。

その後、高校生になって新聞部の写真担当となって写真部の暗室でプリントしたり、実家の押し入れで暗室作業をし、二眼レフを引き伸ばし機に代用したりしていました。その後、父親からレンズ交換式の一眼レフカメラを買ってもらい、写真撮影が趣味の近所のおじさん達と一緒に撮影したり、行きつけのカメラ店さんが後援の写真クラブに入会を勧められ、例会や撮影会に出ていました。写真撮影は独学でしたが、結構高い評価を受けていました。

家業を継いで塗師になる――

高校を卒業し家業の塗師を継ぐことになりました。塗師としての師匠でもある父親は寺院仏閣や仏壇など、日本の伝統工芸に関わる仕事をしていて、自分も素晴らしい蒔絵や木彫等に感化されていました。塗師としての仕事は徐々に出来るようになりましたが、2～3年経つと「親父を抜けない」と自覚するようになり塗師を諦めました。ただ、この塗師時代にも、写真に関しては富士フイルムの 35mm から 6x9cm 判まで対応する B 型引き伸ばし機を入手し、自宅でお座敷暗室ながらも写真活動は続けていました。

写真学校入学と卒業後――

ちょっとした縁で名古屋にある日本デザイナー学院の写真学科に入学し、主にモノクロ撮影とモノクロプリントを勉強していました。卒業後は写真作家になりたいと上京し、写真家の吉田昭二先生に師事しました。その時、師事しようと思う写真家の条件を自分で決めました。（1）コマーシャルの分野で活躍している事（2）写真作家として独特な作風を持っている事（3）3 万円以上（現在の 10 万円位 ?）の給料がもらえる事　と、かなり難しい条件だったと思いますね。特に、当時はカメラマンアシスタントなんて無給に近い状態で働いていたのもざらでしたから。

アシスタント時代はコマーシャル撮影分野の商品撮影、モデル撮影、料理撮影等に多く立ち合え、撮影技術やライティング技術を習得することに励みました。仕事が終わってからは帰宅の電車の中やアパートの自室で撮影メモを作ったりしていました。結局ここに 1 年半在籍し、結婚を機に辞めてフリーになりましたが、喰えないので日本写真専門学院教務課に勤務し、事務仕事だけではなく、モノクロの暗室テクニック、ライティング等のベーシックな部分を7年ほど教えていました。グレースケールを複写させ綺麗にプリントするまで何回も焼き直しをさせたなんて事もありました。基本が一番大事なことですから。

1982 年にフリーカメラマンになる――

1982 年に念願のフリーカメラマンになりました。当時は家も建て子供二人を育てていたので大変でしたが、カメラメーカー、カルチャーセンター、写真団体など多くの写真講師も務め、更にカメラ雑誌への執筆、コマーシャル撮影などかなりの仕事をこなしていく毎日でした。

特に個展を開催することで、来場された関係者からの要望で沢山の仕事に繋がったと思っています。趣味で撮っていた野外彫刻の個展を銀座で開催していた時、見てくれた美術館の方から後に連絡があり、箱根彫刻の森美術館の仕事を契約して行っていたこともあります。運もよかったのでしょうが、私は個展を開催することでいろいろな仕事が出来たと今でも感じています。これがなければ全国を取材したり、カメラを買ったり、家を建てたりすることは出来なかったと思います。実に多くの世界最高峰のカメラ機材を購入したり、8×10inch 判の引き伸ばし機を導入するために築 10 年の自宅を改築した写真家など珍しいでしょうね。

三輪薫写真展「こころの和いろ」より

三輪薫写真展「こころの和いろ」より

現在撮影されている写真のテーマは――

ずばりテーマは「三輪 薫」です。三輪薫のテーマの中に都市があったり、森があったり、山があったり、モノクロがあります。これらを三輪薫として独自の目で撮影する事になります。いろいろな被写体を撮影して発表してきましたが、撮影していない分野はネイチャーフォトならぬ「ネイチャンフォト」と「ドキュメンタリー」くらいだと思います。また、今後もこの二つはきっと撮影出来ないでしょうね。

「わの会」について――

1990 年代の後半からキヤノン EOS 学園の講師を務めていた時に、受講者の一部の方々から僕を囲む会を作りたいとの要望がありました。初めは固持し、10 年後くらいならとお願いしたのですが、強い要望で 1998 年に発足しました。現在会員は約 180 名ですが、毎年1回開催の『集いの会』（1泊）には 50〜70 人くらいの会員が集結し、日中は撮影三昧、夜は懇親会と僕のセミナーで盛り上がっています。今年 10 月の『集いの会』は何と 20 回目を迎えます。また、写真展や撮影会、写真教室も定期的に開催しています。

写真に関しては、会員の皆さんより私の方が技術的には上と思うのでかなり細かくアドバイスしますが、プライベートでは対等の立場だと思っています。いや、ある意味例会を離れたら皆さん私より目上の方達ばかりです。ですからプライベートでは反対にアドバイスをもらう事も多々ありますので感謝しています。

自然風景を撮り始めた動機とプリント制作――

フリーになった 1982 年の数年前に竹内敏信先生を通じ水越武さんと知り合い、自然風景写真に興味を抱きました。フリーになる前に「自然風景を撮影したい」と話したところ、晩冬の上高地に誘われ、数日を共にし、作品創りの姿勢に共感を覚えました。

元々旅が好きで、フリーになって暫く車で寝泊まりしながら全国を徘徊し、出会った時に感じた自然の姿を心の記憶として撮影を続けていました。約 3 年後に当時プロ担当だった後の京セラ・コンタックスサロン館長町田光氏に勧められて銀座鳩居堂ビル6Fにあった京セラ・コンタックスサロン銀座で個展開催。後に日本的な表現を求めるには日本の自然風景を借りて作品創りを行うのがベストと考えるようになりました。

また、フリーになる前から最終作品はプリントと考えて作品創りをしていて、そのために個展開催をメインに作品を発表。モノクロ写真も大好きで、ライツのフォコマートとダーストを 35 ミリ用と中判用に各 2 台用意し、8×10inch 判の引き伸ばし機もイギリスから取り寄せ、自家処理による銀塩ファインプリントの制作にも励んでいました。しかし、日本的な作品表現を達成するには和紙プリントのほうが自分にとってはベストと考え、当時のコダック、富士フイルム、コニカなどに問い合わましたが、ファインプリントとしての和紙によるカラーペーパーは製造不可といわれました。

一方で、日本的な表現には色の問題がとても大切と考え、当時の多銘柄のリバーサルフィルムの発色などを研究しました。常に 7〜10 銘柄くらい用意し、同じ被写体を数種のフィルムで撮り分け、自分にとっての日本的な色とは何かと探究を続けました。個展作品の撮影フィルムは常に 7〜8 銘柄ありましたが、2001 年に開催した「風色」展では 11 銘柄を使い分けた作品を展示。デジタル時代になり Digital カメラでの撮影や和紙プリントでの作品創りには銀塩時代のフィルム研究がとても役立っています。

和紙によるプリントについて――

現在の伊勢和紙による作品創りには 10 数銘柄の和紙を使い分けています。和紙は銘柄によって原料やその配分の違いがプリントの結果に大きく影響するからです。また、伊勢和紙は機械すきも手漉きも表面加工はされていなく、写真用紙、マット紙、画材紙などと違って裏面にもプリント出来ます。きめ細かく見える面面（滑面）は輝きや透明感のある再現に活かせ、多少粗く凹凸感がある裏面（粗面）は落ち着いた優しい雰囲気を出すのに合っています。自分が求める方向性により、銘柄の選択や滑面粗面の使い分けも楽しいものですね。

個展をメインに作品を発表していますが、四切くらいの小さなサイズから、かなり大きな四八判（1,100mm×2,400mm の手漉き和紙）や 860mm 幅の機械すきのロール紙まで画面サイズをいろいろ変えてプリントし、額装だけではなく、上下を木製（漆塗りや白木）の桟で挟んで吊り下げたり、手漉き和紙の四辺の耳を全て出して展示するために磁石止めで展示しています。また、行灯のように光りに透かして見せることもでき、現在開催の伊勢和紙ギャラリー展では3枚重ねている作品もあります。

三輪薫写真展「巴里」より

三輪薫写真展「巴里」より

三輪薫写真展「巴里」より

フィルムとデジタルについて―

2000 年にキヤノンEOS D30が発売されて購入した時にはインクジェットプリンターもある程度よくなってデジタルを導入しました。和紙プリントによる個展を開催するには、長年撮り続けてきたフィルム作品のほうが数多くあり、2003 年の伊勢和紙と越前和紙を使った個展「風香」では、コンタックス 645 で撮影したフィルムをドラムスキャナでデータ化してプリントしました。今ではデジタルカメラのクオリティーも上がっていますが、和紙にプリントする画像データはフィルムをスキャンしたのもいいと思います。それはフィルムの持つ独特の空気感、臨場感、奥行感が和紙プリントに如実に反映されるからです。因みに、現在もフィルムでも撮っていて、デジタル撮影で手応えのあったカットを押さえています。

今後の制作活動――

プロの写真家はピリオドを打てない世界です。いろいろな身体的能力は低下するかも知れませんが、蓄積された経験を探求して発展させる事ですね。若い時からの考えでもありますが、版画家のように作品を売って生活できるような基盤が出来たらいいですよね。そして写真を撮影するモットーは「人生を楽しく」ですね。僕もみんなも楽しく、写真展を開催する人も来場される方も皆が写真を通して楽しくなりたいですね。

そうそうマミヤカメラについては 645 を今でも持っていますが、マミヤカメラクラブの皆さんも楽しく撮影し、写真展も開催してください。期待しています。

三輪薫写真展「こころの和いろ」
開催日　2017年9月17日～10月15日
場　所　伊勢和紙ギャラリー
　　三重県伊勢市大世古1-10-30
　　Tel 0596-28-2359

[三輪 薫　個展]

1976「道道」銀座ニコンサロン、名古屋ワキタギャラリー
1983「奥会津十年一昔」ミノルタフォトスペース新宿
　「瞬光-風景の中の彫刻」ナガセフォトサロン（コダックフォトサロン）
1985「花逍遥」写真詩展（詩・高田敏子）ペンタックスフォーラム（新宿）
　「風光」京セラ・コンタックスサロン銀座／京セラ・京都サービスセンター
1988「光貌-風景の中の彫刻」京セラ・コンタックスサロン銀座
1990「都市の気配-東京夢幻」コニカフォトギャラリー（東京／大阪／名古屋）
1991「森」ギャラリー6・渋谷
　「風光-II」京セラ・コンタックスサロン銀座／京セラ・京都サービスセンター
1992「風」ギャラリー6・渋谷
1994「ファインプリント展」京セラ・コンタックスサロン銀座
　「風光」「ファインプリント展」岐阜県「関ヶ原ふれあいセンター」
1995「ファインプリント展」フリップフラップギャラリー・ジャパン(名古屋)
1996「風光-III」京セラ・コンタックスサロン銀座
1998「樹奏」京セラ・コンタックスサロン銀座
　「ファインプリント展-II」京セラ・コンタックスサロン銀座
2000「風光-IV」京セラ・コンタックスサロン銀座
2001「風色」キヤノンサロン（銀座）
2002「風色」キヤノンサロン（名古屋／福岡／大阪梅田／札幌）
　「ファインプリント展-III」京セラ・コンタックスサロン銀座
2003「風香」-伊勢和紙、越前和紙とピエゾグラフによる日本の心の自然風景-
　　エプソンピエゾグラフギャラリー京都／アクシスギャラリーアネックス（六本木）
2004「風色-II」（EOS Digital／伊勢和紙）キヤノンサロン（銀座／札幌／仙台／名古屋／大阪梅田）
　「ピエゾグラフ写真展」（美濃和紙）　岐阜県美濃市町家画廊（美濃市制50周年記念展）
　「Rock」京セラ・コンタックスサロン銀座
2005「風香」-伊勢和紙、越前和紙と、ピエゾグラフによる日本の心の自然風景-　京セラ・コンタックスサロン東京
　「伊勢和紙デジタルプリント展」伊勢和紙ギャラリー（開館記念展）
2006「ファインプリント展-IV」（アナログ＆伊勢和紙）　京セラ・コンタックスサロン東京／伊勢和紙ギャラリー
2007「花逍遙-II」（EOS Digital／伊勢和紙）キヤノンギャラリー（銀座/福岡/大阪梅田/名古屋）／伊勢和紙ギャラリー
2008「風光-V」（アナログ＆伊勢和紙）　京セラ・コンタックスサロン東京／伊勢和紙ギャラリー
2009「ファインプリント展-V」（アナログ＆伊勢和紙）　京セラ・コンタックスサロン東京／小津ギャラリ
　「三輪薫・伊勢和紙作品展　PHOTO IMAGING EXPO 2009　東京ビッグサイト
2010「ファインプリント展-V」（アナログ＆伊勢和紙）　伊勢和紙ギャラリー巡回展
　「樹風」（伊勢和紙）小津ギャラリー
2011「樹風」（伊勢和紙）伊勢和紙ギャラリー巡回展
　「水の抄」（EOS Digital／伊勢和紙）小津ギャラリー
2012「水の抄」（EOS Digital／伊勢和紙）伊勢和紙ギャラリー巡回展
　「花恋」（EOS Digital／伊勢和紙）小津ギャラリー
2013「花恋」（EOS Digital／伊勢和紙）伊勢和紙ギャラリー巡回展
2015「三輪薫・伊勢和紙作品展」CP+ 2015 パシフィコ横浜
　「仏蘭西・巴里」（伊勢和紙）小津ギャラリー
2016「仏蘭西・巴里」（伊勢和紙）伊勢和紙ギャラリー巡回展
　「こころの和いろ」（EOS Digital／伊勢和紙）　キヤノンギャラリー銀座／札幌／梅田
2017「三輪薫・伊勢和紙作品展」CP+ 2017 パシフィコ横浜
　「こころの和いろ」（伊勢和紙）伊勢和紙ギャラリー巡回展

【三輪薫さんが指導・監修等を行う直近の写真展】

①三輪薫のすてきな写真の撮り方教室
「第20回写真展　和気あいあい」
ギャラリーアートグラフ
2017年12月1日～7日

②キヤノンクラブ東京第1写真展
「四季光彩2017」
キヤノンオープンギャラリー2
2017年9月15日～10月3日

③キヤノンクラブ東京第5写真展
「第20回 季節のめぐりあい」
ポートレートギャラリー
2017年12月7日～13日

④岸本登巳子写真展
「輝く動物たち」
GALLERY IZU
2017年10月10日～15日

⑤横田一彦85写真展
「季の語らい」
ギャラリーアートグラフ
2017年10月27日～11月2日

今回の「ユーザーを訪ねて」は、水のある風景に心惹かれ、映像表現を追求する谷戸優さんの登場です。作品をじっと見ているとその場の冷気も伝わり、渓流の水音に包まれていくようです。

若い頃、休みの度の山行を趣味とし、撮影を始めたのが写真との出会いです。30 代から次第に写真がメインとなり、カメラも次々とステップアップ、中判カメラ、大判カメラ、デジタルカメラと状況に応じ使い分け撮影しています。心身ともに癒してくれる水の流れに魅せられ、東北、信州、木曽をメインの撮影地として通う傍、地元板橋区の写真部の撮影会を主催し、指導することにも力を注いでいます。

フィルムの醸し出す発色性、空気感が何とも好きと言います。また、瞬間を写し取ることで有利なデジタルカメラを使っても、パソコンで大きな色の調整や変更は絶対しないという強い拘りを持ち、撮影、作品作りをしているそうです。

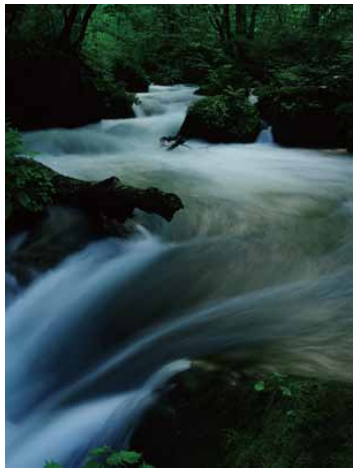
水の流れに魅せられて

谷戸　優 さん

谷戸　優（やと　すぐる）

1943 年生まれ。東京都板橋区在住。ここ１０年程、「水の流れ」撮影をライフワークとして、マミヤ 645PRO、大判カメラ、デジタルカメラを使い撮影をしている。

マミヤカメラクラブ会員、日本リンホフクラブ会員、ワイズ大中判写真の会会員。PFJ 会員。板橋区美術家連盟写真部代表。PC ネイチャーズ代表。板橋区青色申告会写真部代表。



銀座・富士フォトギャラリーとクリエイト銀座本店を担当して
写真文化を発信する 本間 孝さん に聞く。

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社　クリエイト営業部　東京エリア営業統括
本間　孝（ほんま　たかし）
1969 年東京生まれ
東京写真専門学校（現・東京ビジュアルアーツ）卒業。
1990 年（株）プロラボクリエイト東京に入社。
リバーサルからの作品プリントを約 12 年間担当後、現在は、その経験を活かしプロ作家や写真愛好家の作品プリントや写真展制作を中心とした営業を担当している。
現在の趣味はロードバイクと日本酒。

2016年8月にクリエイト新宿営業所とギンザファイブに在ったクリエイト銀座営業所、更に富士フォトギャラリー新宿を統合し、銀座1丁目にクリエイト銀座本店＆富士フォトギャラリー銀座として、パワーアップオープンした富士フイルムイメージングシステムズ社の東京エリア営業統括として活躍する本間孝さんを訪ねてギャラリー動向、現像・プリントの現状等をお聞きしました。

地下鉄・銀座一丁目駅や京橋駅からも近く、アクセスが大変便利になった事を感じながら、同社が入るビルの前に来ると、見慣れた看板が目に入りました。エレベーターに乗り4階で降りて、いざインタビューの開始です。

（木戸）

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社
クリエイト銀座本店/富士フォトギャラリー銀座
〒104-0061　東京都中央区銀座１丁目２－４
サクセス銀座ファーストビル４Ｆ
TEL03-3538-9822　FAX03-3767-0039

―― ３つの部門が統合されたクリエイト銀座本店＆富士フォトギャラリーについて？

2016年8月に3つの部門が統合され、クリエイト銀座本店＆富士フォトギャラリー銀座になって今のビルに移転した訳ですが、正直ビルの4階でお客様に受け入れられるのか、当初は不安がありました。お陰様でギャラリーとしては新宿に在った時よりアクセスが良くなり、ギャラリー来場のついでに銀座で食事や買い物が出来る事や現像・プリント依頼時にギャラリーを覗けるなど好評の声が強く一安心しているところです。ただ、私個人としての違いは、以前はクリエイト銀座営業所の所長だったのですが、統合で今までの業務の他にギャラリー運営と営業関係が増えたのが違いです。

―― 銀座のギャラリーと言う事で人気が上がっているとか？

新宿にギャラリーが在った時は展示ケジュールを埋めるのが大変でしたが、銀座になってからは人気が上がって、今では1年半先の申し込みまで一杯になっている程です。その理由は、オープニング時の企画展の開催や小さな展示スペースであるスペース3の存在、フェースブックを利用して情報公開しているの事もあると思います。プロアマを問わず若い作家さん達からの人気があるのもそんな理由からと思います。

また、ギャラリー利用に関しましては、プロが1～2割で、アマチュアが8～9割位の割合ですが、アマチュアの方々はグループ展が多いのも特長です。

―― 近年の展示方法の違いは？

圧倒的にカラーのデジタル作品が多く、フィルムからの作品プリントは1割程だと思います。ただ、クリエイトとしてのプリント注文はフィルムによるものが3割近くあるのですが・・・・。

―― 現像とプリントの受注は？

クリエイトの銀座営業所と新宿営業所を足して１＋１は2のはずなのですが、それ以上の数字となっています。やはり、アクセスの良さとギャラリーを併設したことからの数字と思います。ただ、リバーサル現像は減っているのは事実ですが、その分プリントが伸びています。今はデジタルプリントをどの様に伸ばすかを考えないと会社としての成長はないと思います。

デジタルが分かる優秀なスタッフを揃え、受付時にもパソコンで確認したりアドバイスをすることも実践しています。因みに、このスペースでのスタッフ数は8名とOBにもお手伝い頂いて10名態勢で対応しています。

―― 店舗以外でのプリント対応は？

web受付サービスを今年から始めました。徐々に認知されてきており、インターネットを使い日本全国からプリントの発注が出来ます。決済はクレジットカードか代引き便を利用していますので、皆様是非ご利用ください。またフィルム現像に関しましても宅配サービスがありますのでご安心ください。

―― 本間さんの写真と会社との出会いは？

小学生の時に父親にカメラを買ってもらったのが写真との出会いです。鉄道写真を撮るのが好きでNゲージも趣味にするほどでした。暗室に関しては、高校の写真部で学校も東京写真専門学校に入学し、卒業後に今の会社の前身プロラボクリエイト東京に入社したのが1990年ですから、丁度ベルビア50フィルムが発売された年ですね。入社後1年間は営業職を務め、その後リバーサルプリント制作を12年間にわたり経験しました。ですからその時の経験と知識が、現在のプロ写真家や写真愛好家との付き合いに活きていると思います。

―― お客様へのメッセージは？

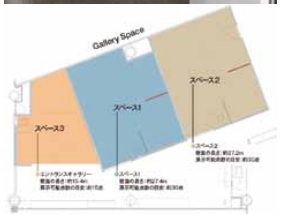
デジタルの時代ではありますが、フィルムも大事にして行きたいと思います。プリント作りや写真展開催について、何でもご相談ください。そして私どものスペースを気軽にご利用ください。クオリティに関しましては絶対の自信を持っていますので。

プリントを受けるだけでなくお客様のメリットを考えながら、もっと「写真」を広めて行きたいと思っています。

【クリエイト銀座本店＆富士フォトギャラリー銀座のサービス内容】
- ◎各種フィルムとデジタルデータからの作品プリント
- ◎フィルム現像（リバーサルフィルム、ネガフィルム、黒白フィルム）
- ◎フィルムやプリント等からのスキャニング
- ◎撮影・複写
- ◎Web や宅配によるメールオーダーサービス
- ◎富士フォトギャラリー銀座・大阪の運営

※写真は「Webプロラボサービス」の宣伝リーフレット。

エレベータを4階で降り左側を見ると、ギャラリーとクリエイト受付が見えます。落ち着いたレイアウトに好感が持てます。



ギャラリースペースは真ん中がスペース1、奥がスペース2、手前が若い作家に人気のあるスペース3です。1、2、3全てのスペースを使った写真展開催も可能です。

現像・プリントを受け付けるカウンターの手前右側にはデジタールデータのチェックが出来るパソコンが数台設置されています。

写真展開催時のプリントチェックはこのスペースで行います。その他にも小スペースが幾つか用意されています。

大判カメラのすすめ

その 11

今回の撮影は中判デジタルバックのフェーズワンをデジタルスライダーに装着して撮影にあたりました。スライダーに標準装着された専用ピントガラスで、構図・ピントを確認し撮影時にデジタルバック面にスライドさせます。ピント位置も変わらず撮影に集中出来るシステムです。尚シャッター速度と絞り設定、並びにシャッター操作は大判カメラのシャッターで行います。

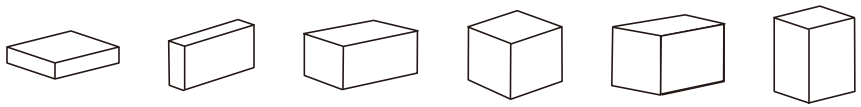
今号の「大判カメラのすすめ」は、商品撮影の基本とも言える箱物撮影にスポットを当てたいと思います。被写体に選んだのは、洋書の形をした小物入れです。ピントガラスを覗いたその姿は正に長方形の箱です。ビューカメラ・ホースマン LX に、何とフェーズワンの中判デジタルバックを装着して「箱物のアオリ撮影」をスタートです。

（木戸）

【商品撮影の基本は箱物撮影から】

商品撮影の基本は箱物撮影と言われています。巷間販売されている商品は大体が化粧箱に入っています。商品により、この箱の形は下のイラストのように平型、長方形、正方形等いろいろな形状をしています。また、この化粧箱に商品の名前や写真、ロゴ等が印刷されています。この化粧箱の写真を撮影する場合、ピント面の調整アオリはもちろん、形の修正アオリ、複合アオリまで使用致します。

特に大事なのがカメラポジションとも言えます。製品の特性や製品名、ロゴ、イラスト等を考慮し、ベストのカメラポジションとベストなアオリで撮影してみましょう。今回は洋書の形をした小物入れをタテの長方形箱と見立てて撮影を行います。

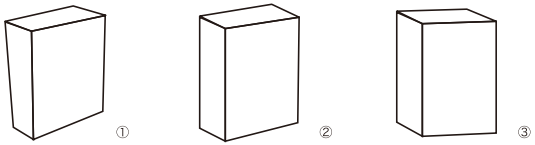


【カメラ位置は箱の 3 面をどの様に構図するかを決定してアオリ撮影】

前号の「大判カメラのすすめ」でも記載しましたが、立体物の箱をカメラポジションにより「正面・側面・上面」をどの様な面積比にすれば良いか検討します。

これにより今回はイラスト①に決定しましたが、俯瞰した状態でカメラを構えているので、箱上部が箱下部に比べ小さくなり安定性のない形になってしまいました。これをイラスト②の様に、バックチルトアオリで形を整え、更にフロントチルトアオリでピント面も修整しました。

本来この状態でも箱物撮影として OK の場合もありますが、イラスト③の様に平行線のパースも修整したものが箱物撮影の基本とされています。この時のアオリ操作は②の状態から、バックスイングアオリで平行線を整え、フロントスイングアオリでピント面も調整しています。それでは事項で実際の撮影に入ります。



④

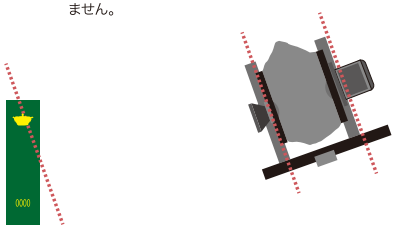
⑤

⑥

書籍小物入れ（以下書籍）の上面、側面、正面の三面の割合を考慮しカメラポジションを決定します。

レンズはアオリ量を少なくする様に、長めの焦点距離のレンズを装着しました。

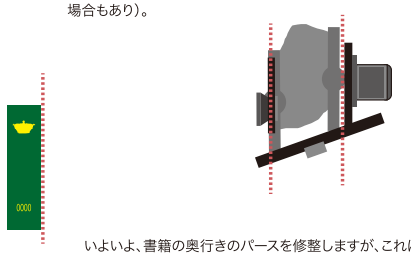
書籍の厚さや、背表紙のイラストや文字が適度に見える事を確認して撮影しましたが、書籍の上部より下部が小さく写り、垂直線も出ていません。



垂直線を修整するためバックチルトアオリを垂直に立てて形を修整します。

次に、ピント面もタテにするためフロントチルトアオリを垂直にして再度ピント調整をします。

これで書籍のタテ面とレンズ面、フィルム面（センサー面）全てが平行になった事になり、整った書籍写真が完成しました（この状態で完成の場合もあり）。

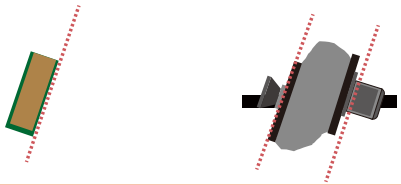


いよいよ、書籍の奥行きのパースを修整しますが、これは電化製品等の正面が相当にインパクトのある場合に必ず使う撮影手法です。

垂直線が整った状態から、バックスイングアオリを使い、書籍正面と同じ角度にになるように徐々にスイングして行きます。まるで書籍正面を真っ直ぐ前から捉えたところでバックスイングアオリを終了します。

次に、ピント面も同じ平行関係に近くなるように調整し、最終ピント確認をします。これである程度の絞りを与えて撮影すれば、アオリを使った箱物撮影は終了です。

如何ですか？是非一度チャレンジしてみてください。



曽我定昭さん　2018 年度版 “ 天　城 ” のカレンダー販売のお知らせ

マミヤカメラクラブでもお馴染みの、長年伊豆天城山を撮影している写真家、曽我定昭さんの 2018 年度版カレンダー『幽彩 天城の森』ができました。被写体の扱い、構図、季節、色彩、天候、撮影時間帯、タイトル等、ネイチャー写真を撮ることの多いクラブの皆さんにも大変参考になると思います。写真集の様な美しい写真印刷のカレンダーは、保存用としてもお薦めです。

○サイズ：A4 28 ページ　○価格：1 部 1000 円（税・送料込み）

○お申込み：**s.soga.amagi@jcom.zaq.ne.jp**　に送付先の住所、氏名、電話番号、必要部数を記載の上お申込みください。

下町情緒と水と緑が残る赤羽・岩淵界隈。

東京都北区の北部に位置する赤羽は、古くからの商業中心地として栄えていますが、下町情緒残る雰囲気が人気で、近年は若い人にも注目されるエリアとなっています。特に駅周辺に広がる商店街は活況で飲食店も多く、人気のおでん屋さん等がある町としても知られています。荒川に隣接する岩淵は赤色の岩淵水門でも有名ですが、更に、東京都区内唯一の造り酒屋「小山酒造」も操業していて、歩いているだけで昭和にタイムスリップした様な感覚になります。今回は、そんな魅力的な「赤羽・岩淵界隈」を歩く特別コースを用意致しましたので、是非お出掛けください。

①スタートの場所として選んだのは、JR 赤羽駅です。駅の周りは商業施設も多くかなりの人出です。

②ここは是非抑えたいという、TV でも紹介されている立ち飲み・喰いのおでん屋さん。

③④昼間から多くの飲み助さんが集まる東口の立ち飲み街。土地柄、鰻や鯉等の川魚を扱う飲食店も多い様です。

⑤宝幢院前の道しるべは、江戸中期につくられたもので「東　川口善光寺道　日光岩付道」「西　西国冨士道　板橋道」「南　江戸道」と刻まれています。

⑥古い長屋作りと、その奥に見える現代風の建て売り住宅群。時代の流れを感じる光景です。

⑦大満寺の門前に在るお地蔵さんは、幸福を自宅まで届けてくれる手わらじ地蔵さん。

⑧岩淵町の中心的な寺院である正光寺の本尊は阿弥陀如来で、観音堂にある観音像は源頼朝公守本尊といわれている。

⑨岩淵町には昭和の面影を残す商店もあります。どことなく駄菓子屋さんのイメージですね。

⑩岩淵町はやはり「水」の町なのでしょうか？こんなに可愛らしいカッパが居る「岩淵カッパ広場」も在ります。

⑪東京 23 区で唯一の造り酒屋、「小山酒造」。平日には 40 分ほどの蔵見学ツアー（500 円）もあります。

⑫小山酒造に隣接する小山酒店は、小山酒造社長のご兄弟が経営されています。小山酒造のいろいろなお酒を購入出来ます。

⑬昔の赤羽村、下村、袋村、岩淵宿、稲付村の総鎮守の八幡神社。「勝負の神」として受験生やスポーツ選手をはじめ広く信仰されています。

⑭八幡神社の前の道から隅田川支流を渡ると、広く遠くを見渡せる荒川河川敷になります。

⑮河川敷を少し歩くと見えるのが岩淵水門です。荒川と隅田川とを仕切る水門で、新旧 2 つの水門があり、旧水門の赤水門、新水門は青水門と呼ばれています。

⑯こんな光景を目にすることは少なくなりましたが、ここでは水門近くで子供達が釣りや水遊びをしています。

⑰熊野神社の白酒祭という行事は、弓矢で「鬼」と書かれた的を射抜き、その年の吉凶を占い、その後に、白酒と短冊形の切り餅が参拝者にふるまわれます。珍しい行事です。

⑱西蓮寺は、付近の廃寺となった地蔵院・満願寺・観音寺の本尊と熊野神社のご神体が安置されています。

⑲赤羽スズラン通り商店街を抜け赤羽駅に戻り、散策の終了です。

《編集後記》今号の「赤羽・岩淵界隈」の特集の様に、下町界隈シリーズ撮影会を定期的の開催しています。2020 年開催の東京オリンピックの影響からか、古い建物がマンションになったり、歴史在る商店が廃業したり等、東京も大きな変貌を続けています。写真は「時」を写すもの、記録するものでもあるので、皆さんにも慣れ親しんだ町を歩いて記録される事をお薦めします。下町界隈撮影会は今後も積極的に開催しますので是非ご参加ください。日程等はマミヤカメラクラブホームページをご覧ください。木戸